

性犯罪の被害から相談までに要した期間に関する調査結果

法務省において、大阪府、福岡県及び愛知県の各ワンストップ支援センターに対し照会し、回答を得た結果は以下のとおりである。

1 性暴力救援センター・大阪 SACHICO（大阪府）

平成 30 年度（2018 年度）に、他人からの強制性交等・強制わいせつなどの性暴力（家族、パートナーからの被害を除く。）の被害に遭ったとしてセンターに来所した者（初診、実人員）は、計 168 名であった（この 168 名のほかに、家族からの被害（性的虐待等）が 89 名、パートナーからの被害（DV、デート DV）が 28 名、その他（不特定多数の者との性的行為など）が 54 名来所している）。

この 168 名につき、被害から相談までに要した期間及び被害者の年齢分布は、以下のとおりである。

〈被害から相談までに要した期間〉

期間	人数	割合
72 時間以内	78 名	46.4 %
1 週間以内	20 名	11.9 %
1 か月以内	21 名	12.5 %
1 年以内	33 名	19.6 %
1 年以上	16 名	9.5 %

※「1 年以上」には、10 年以上を要したものの 3 名を含む。

※割合については、小数第 2 位を四捨五入

〈相談者（被害に遭った方）の年齢分布〉

年齢	人数
10 歳未満	4 名
10～19 歳	61 名（10～14 歳：22 名、15～19 歳：39 名）
20～29 歳	70 名（20～24 歳：44 名、25～29 歳：26 名）
30～39 歳	18 名（30～34 歳：13 名、35～39 歳：5 名）
40～49 歳	13 名（40～44 歳：5 名、45～49 歳：8 名）
50 歳以上	2 名

168 名の被害のうち、「背後から口をふさがれて倒された」、「手足を縛られた」、「包丁を突き付けられた」、「マンションの裏に連れ込まれて「殺す

ぞ」と言われた」などの暴行・脅迫があった事案は、13件（7.7%）程度であり、多くは、拒否の気持ちと態度を示しているのに性交されたといったものであった。

被害から相談までに長期間を要する例としては、過去の被害を打ち明けることによって被害に区切りをつけたいとして相談に来る例や、平成12年（2000年）に児童虐待防止法ができたことにより、自分がされてきたことが虐待に該当するのではないかと考え、悩んだ末に相談に来る例があるとのことであった。

2 性暴力被害者支援センター・ふくおか（福岡県）

平成30年度（2018年度）にセンターに電話相談をした実人数は607名であり、この607名につき、被害から相談までに要した期間及び被害者の年齢分布は、以下のとおりである。

〈被害から相談までに要した期間〉

期間	割合
2週間以内	37%
1年以内	21%
1年超	21%
不明	21%

〈相談者（被害に遭った方）の年齢分布〉

年齢	割合
10歳代以下	25%（7%が中学生）
20歳代	26%
30歳代	14%
40歳代以上	16%
不明	19%

被害から長期間経過してから相談する者の相談のきっかけとしては、「症状が悪化してきつくなったこと」が多く、出産を経験する、パートナーを得る、育児をするといったライフサイクルの中で、被害を思い出し、フラッシュバックが起り、それまで何とか保ってきた生活が維持できなくなる者が一定数いるとのことであった。

3 性暴力救援センター日赤なごや・なごみ（愛知県）

平成 28 年 1 月 5 日から令和元年 12 月 31 日までの間に、センターに来院して面談した新規実人数は 474 名である。この 474 名につき、被害から相談までに要した期間等は、以下のとおりである。

〈被害から相談までに要した期間〉

期間	人数	割合
72 時間以内	237 名	50.0 %
1 か月以内	86 名	18.1 %
半年以内	53 名	11.2 %
1 年以内	14 名	3.0 %
1 年超	84 名	17.7 %

※「1 年超」には、40 年以上を要したものを含み、84 名中 58 名が、被害時 18 歳未満であった。

※割合については、小数第 2 位を四捨五入

〈相談者（被害に遭った方）の年齢分布〉

年齢	人数	割合
10 歳未満	22 名	4.6 %
10 歳代	152 名	32.1 %
20 歳代	166 名	35.0 %
30 歳代	61 名	12.9 %
40 歳代	44 名	9.3 %
50 歳以上	28 名	5.9 %
不明	1 名	0.2 %

※割合については、小数第 2 位を四捨五入

474 名の被害内容は、強制性交等が 245 名と最も多く、次いで DV・デート DV が 72 名、強制わいせつが 72 名、性虐待が 34 名であった。

また、来所者と加害者の関係については、83%が面識がある人（親族 27%、知人 56%）からの被害であった。